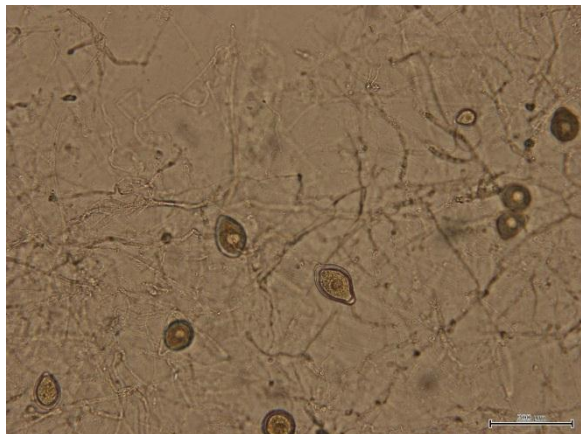


トウガラシ疫病 (Phytophthora blight)

Phytophthora capsici Leonian



トウガラシ疫病菌



定植後のトウガラシ被害の様子

発生生態

土壌伝染性病害で、土壌水分が多いと発生します。定植後の地際部に暗緑色水浸状の病斑が現れ、病斑が拡大すると地上部は萎凋・枯死し、根は褐変腐敗します。葉では暗緑色水浸状の斑点を生じ、葉裏には白いカビが見られます。果実でも水浸状病斑を生じ、後に軟化腐敗します。

防除対策

連作を避け、ナス科、ウリ科以外の作物と輪作しましょう。土壌水分が高くないよう、排水に努めます。雨よけ、マルチ、敷わらなどによって、はね上げによる感染を防ぎましょう。苗床からの持ち込みにも注意し、発病が確認されたら登録のある薬剤を速やかに散布しましょう。